

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

かえで

日付 平成 20年 12月 16日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

ホームの玄関に一步足を踏み入ると「あゝ秋だな」と感じさせられるすすきの生花がお迎えしてくれた。リビングルームへの戸の入口では、「楓で風ぜ 頬面撫でて 通り過ぎ 人生航路 楽のしけり」の、立派な筆遣いの短冊が、私の足を止める。さっそく聞いてみると、1F利用者の自称「かがくうた」さんの作品であると言う。リビングルームの壁ギャラリーには、このグループホームの名前である「かえで」がふんだんに取り入れられた和歌や川柳の短冊が私を唸らせた。居室に入らせて貰うと作品の短冊の山が……。作品から、そしてこの人の嬉しそうな笑顔や言葉の端々から、このホーム「かえで」に対する感謝の気持ち・満足感・生き甲斐・愛情等、もう言葉では言い尽せない色々なものを一杯感じ取る事が出来た。ここに「人生・いつでもおもしろくなきゃ」という「かがくうた」さんが居り、「老人よ 元気出せ 出せ かえであり」と周囲の人達やスタッフも巻き込んで、暖かな空気が満ち溢れている。

このような今日の日が見られるのは、開設以来5年半の間「一人ひとりを常に見つめ直し、個々の能力を生かした温かみのあるケア」を、あらゆる業務の中で目指し続けてきたからだろう。関連グループ間で実施し続けている「改善コンクール」でも、こういった視点からの取り組みで良い成果を残している。今年度の取り組みにも意欲的だ。

かねてからの課題であった「ホームと家族の交流」そして「地域との連携・交流促進」についても、今日、大きな進展を確認する事が出来た。家族との関係については、立ち上げ6年ともなり非常に密接な信頼関係が築かれ「おじいちゃんは本当に幸せだったと思う」「すごい仕事をされているんですね」といった言葉も聞かれるようになり、かえってこちらが励まされていると言う。

地域に対する取り組みも、町内会長を筆頭に多くの協力者を得て、次々と嬉しくて頼もしい報告を聞いた。「やはり、ホームをオープンにして色々な人に入って貰う。普段の生活を見て貰う。交流して貰うって、素晴らしい事ですね」の管理者の言葉に、私は満足して、大きく頷いて言った。

「そう、その調子。この波を大切に膨らませ、家族や地域の人達と共にこのホームを育てて行って下さい」

特に改善の余地があると思われる点

利用者一人ひとりのニーズや訴えをしっかりと見つめようという意欲は全体から十二分に伝わって来た。次に、一人の職員のある「気付き」をどうしたら共有し、問題解決やケアプランに繋ぐ事が出来るか、その為のシステム作りをよく話し合っ欲しい。

利用者の家族や地域住民の協力を頂く事は、ホームにとってプラスになるだけではないと私は思う。お互い支え合う関係というのは、必ず双方にとって得るものがある筈。遠慮の気持ちを少しずつ剥き剥きしてみして下さい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：事業所全体としての理念は開設以来諸々の場面で常に意識して、強く高く掲げられており、ホームとしての具体化した目標も定期的に話し合わせ、きちんと評価して改善点は見当たらない。こういった地道な努力の繰り返しで職員自身のレベルも高め、「より良いケアの実践」を実現しているように思われる。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームを訪問する度に「何となくふんわりとした暖かさを感じるケアの裏側に、これだけでも計画された業務の、確実な実行があるんだな！」と実現させられる。職員は非常に誠実に全体の輪を大切にしながら、仕事の域を越えた頑張りを見せている。今回はこういった状況に加えて、利用者の家族や地域社会の人々の「輪と和」の広がりを、今まで以上に強く感じた。「ホームと家族と地域」の三者が互いに手を組み一体となってこのホームの事を考えていく姿が近い内に見られるような気がしている。</p> | | |

II 生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：改善項目としては特に挙げていないが、利用者の今の状況に変化に合わせて、常に細やかな工夫や配慮を続けている様子がよく伺われる。ホームの周囲の敷地を利用して昨年より畑等が増え、利用者の活動の場・楽しみも多くなった。地域の人や家族との交流が加わればもっと嬉しい。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者それぞれのお気に入りの場所・ほっと出来る空間を何とか設定しようと努力している様子がよく判る。これに加えて「この人が、今何を思い、どう感じているか」という心の中の読みが職員の中に自然に出来ているから、今見られるような穏やかな日々があるのだろう。「対応の仕方や状況によっては激怒し易い」と聞いていた人に対しても、気を逸さない暖かな接し方で人と人とを上手に繋ぐ場作りの様子を見る事が出来た。</p> | | |

III ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人のできることに配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にした整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：この項目に関してはホームの理念に通じるものであらゆる角度からのアプローチがあり、自主評価でも改善項目はない。「できることとできないことのみきわめ」についても重要課題としているが、その人の力や経験の「新しい発見へのチャレンジ」という気がしている。</p> <p>2、全体的に見て…：2Fのリビングギャラリーには、犬や猫等の素晴らしい動物の画が飾られている。職員が家族から「絵が好きだった」との情報を得て、紙とペンを渡すが上手く描けず、動物の写真を渡すと驚くほどの才能を発揮したという。本人と肩を並べて見て「お上手ですね」と誉めると「誰が描いたんかな？」という返事だったが、「さんじゃが」の職員の声に嬉しそうだった。一人ひとりに、こんな事例を一つでも多く見つけて表に出して欲しい。</p> | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 災害対策 | | |
| 33 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 34 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 35 | 運営推進会議を活かした取組 | | |
| 36 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 37 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：改善計画の要点として、サービスの質の向上に向けて「第三者相談窓口の設定」や「地域社会の人々との交流やホーム機能の還元」が挙げられている。非常にレベルの高い方向性であり、この改善によって「地域に密着したオープンなグループホームに近付いて行くと思われる。</p> <p>2、全体的に見て…：このグループホームの外部評価に入る毎に「私達は人ひとりの大切な人生をお預かりしているんだ！」という責任感やその重みを、ホーム全体としても、職員一人ひとりも、ずっしりと受け止めて仕事をしている事に多く気付かされ、私は感動している。例を挙げれば紙面が足りない程だが、利用者の最後の看取り時の状況・病院の入退院に際しての話・関連グループ事業所で続けられている「改善コンクール」への取組み姿勢・ホーム独自の家族へのアンケート等、日頃の業務をはるかに超えた誠意と努力が伺われ、家族の立場として感謝の気持ちでいっぱいになる。</p> | | |